

Dwiggins, William Addison [人] ウィリアム・A・ドゥウィギンズ (1880-1956)。アメリカの著名なブック・デザイナーでタイプ・デザイナー。300冊を超えるブックデザインをアルフレッド・クノップ社 (Alfred A. Knopf, Inc.) のために行う。ドゥウィギンズのスタイルは、活字、カリグラフィ、イラストを独創的に扱うもので、同社の出版物を特徴づけた。リミテッド・エディション・クラブのブック・デザインもしている。タイプ・デザインをガウディ (Frederic W. Goudy) のもとで学ぶ。ライノタイプ社に27年にわたって協力し、Metro (1929)、Electra (1935)、Caledonia (1938) の人気書体を世に送り出した。ドゥウィギンズは、graphic designer の語を初めて使ったことでも知られる (1922年)。

DX film-speed recognition [写] フィルム感度読み取り。フィルムの容器 (cassette) に印刷してある感度コードをカメラが読み取る。センサーは、フィルムを装填する部分にある。

Dycril [版] デュポンの樹脂版 (PPDR: photopolymer direct relief printing plate) の商品名。

dye [色] 染料。繊維、皮革、紙などに着色する色素。顔料と違って、水に溶ける性質がある。動物から得る天然染料と化学合成染料がある。主な天然染料に次のようなものがある。catechu (アカシア：褐色)、cochineal (コチニールカイガラムシ：赤)、fustic (黄木：黄)、indigo (洋藍：青)、kermes (カーミンカイガラムシ：赤)、madder (茜：赤)、safflower (紅花：赤)、saffron (サフラン：黄)、woad (細葉大青：青)。緑色は、黄と青の染料を混ぜてつくるのが一般的である。→ dispersed dye, mordant dye

dye transfer [写] 転染法。染料を転染してカラー・プリントをつくる方法。通常のプリントにくらべ高価だが、数百年にわたって変色や褪色せず、修正や合成もしやすいという長所があるマトリックス・フィルムに露光。レリーフ状のゼラチン版をつくる。これを染料液に浸し、ゼラチンを塗った専用の転染紙に順次密着してカラー・プリントをつくるというもの。ダイ・トランスファーは、オリジナル・プリントや高級ポートレート、マスク版と多重露光による合成写真などに使われている。

Dylux [広] 青焼きに使われる感光紙の製品名 (デュポン)。青焼きの意でいうことがある。

□ 00/4/12, 00/3/22, 99/12/14, 99/10/8

plate)。

grain long/short [紙] 紙の目が紙の長辺に沿っているのが grain long (縦目) で、短辺に沿っているものを grain short (横目) と呼ぶ。製紙した紙を断裁し枚葉紙にするとき、むだが出ないように切ることから縦目、横目の紙ができる。本は製本したときにのどと平行に紙の目が並ぶように、判型によって縦目か横目のいずれかを選ぶ。もし製本時に紙の目がのどに対して直角になるときは、折りにくく、湿気でのどや小口が波打つので避ける。A4、B6のように偶数の判型は横目から、A5、B5のように奇数の判型は縦目の用紙から取るとよい。= long grain/short grain

grain photogravure [印] 散粉グラビア。1875年にクリツチュ (Karl Klietsch) によって完成された最初の写真凹版法。アスファルト粉末を散らした銅版上に、画像を焼きつけたカーボン・ティッシュを転写して腐食する。豊かな濃淡を表現できるが、大量生産できないので、今日では美術凹版に用いられる。アスファルト粉末の代わりにグラビア・スクリーンを使って製版し、版をドクターのかき取りに耐えられるようにしたのが今日のグラビア印刷である。→ gravure

-gram [汎] 書く (writing) ・描く (drawing) ・記録する (recording) を意味する連結形 (combining form)。例えば calligram, diagram, monogram, telegram, typogram など。

grammage [紙] メートル坪量 (米坪量)。紙の重さ (厚さ) の単位で、1平方メートルの紙をグラムで表すもの (grams per square meter)。したがって紙の判型に関係なく厚さを比較することができる。g/m<sup>2</sup>, gm<sup>2</sup> または gsm と表す。

Granjon, Robert [人] ロベール・グランジョン (c. 1513-89)。16世紀フランスの父型彫刻師 (punch cutter)。パリの出版業者の息子に生まれたが、リヨンに移り活字をつくる。オランダのプランタンをはじめヨーロッパに活字を供給した。グランジョンはイタリックを改良したことで名高い。10種類にものぼるイタリックをつくりだした。シヴィリテ (→ Civilite) と呼ぶゴシック風味のスク립トや花文字もデザインした。

Grant Projector (英) [具] トレース用の装置。レンズを通して原画 (図) を拡大・縮小して書き写すことができる。

grape [色] グレープ (ぶどう色)。紫みの紺色。

graph [図] グラフ。折れ線グラフ (coordinate graph)、棒グラフ (bar graph)、円グラフ (pie graph) などがある。

graphic [字] 読みやすさよりも視覚的な印象を第一にデザインした書体のグループ。装飾体 (ornamental type) もこのカテゴリーに入る。

graphical symbols for public information [図] 公共案内用図記号。主に交通機関や施設を利用する人々のためにデザインされるシンボル (図記号)。オリンピックのたびごとに使われる競技シンボルや施設シンボルもこの範疇に入る。この種の図記号には、言葉が分からなくとも、ひと目で内容を理解できる長所がある。交通標識や安全標識のように、国際的に統一した方がよいものがあるので、国際標準化機構 (→ ISO) に専門委員会が設置されている。= public signs; → symbol

graphic arts [印] 印刷美術。石版、木版、銅版などの手工芸的なものから、高速輪転機で印刷するものまでその範囲は広い。(通例複数) = graphics

graphic arts camera [版] 製版カメラ。印刷原稿を撮影するカメラ。拡大・縮小し、スクリーンを使い、原稿の濃淡の調子に対応した網点に置き換える。カラー原稿の場合は、3原色と墨の4版に分解する。  
→ screen, screen angle, screen ruling

graphic arts film [版] 製版用フィルム。コントラストの高い画像がえられるように、乳剤処理をしたフィルム。= litho film, repro film

graphic arts magnifier [校] ルーペ。写真原稿、製版フィルム、印刷物をチェックするためのレンズ。

graphic design [印] 印刷を通して表現するデザイン。graphic designer の語を最初に使われたのは1922年で、アメリカのドウィギンズ (→ Dwigins) の造語だった。

graphics 1) [図] 写真やイラストその他の視覚的要素。 2) [印] 印刷美術。= graphic arts; cf. supergraphics (グラフィックスの建築への応用)

graphic tablet [コ] フラット・ボード (flat board) や磁気ペンでコンピューターに入力する装置。

graphite [具] 黒鉛、石墨。鉛筆の芯の主原料。

graphite stick [具] 芯鉛筆。デッサンに使う黒鉛の棒。先を削って使う。

graph paper (米) [具] 方眼紙。= section paper (英)

graph plotter [コ] グラフ作図機。円筒上のものに作図する drum plotter、平らな面に作図する flat-bed plotter がある。

grass-green [色] グラス・グリーン (草色)。草の葉の色。やや暗めの黄緑。若草色または萌黄色と訳す場合は、明るい黄緑。

graver [具] (銅板、木版などに使う) 彫刻刀。

gravure [版] 写真凹版 (photogravure)。写真製版や電子彫刻システムでつくる凹版。画線部が版材の表面よりも低いところにある。インクをセル (cell) と呼ぶ窪みに入れ、セル以外に付着した余分なインクをドクター (doctor blade) と呼ぶ鋼鉄製の刃で拭き取ったのち、印刷する。グラビア印刷機には3種類あり、セルの深さの差で濃淡を表現する conventional gravure と、セルの深さは一定だが、面積が変化する variable area gravure、深さ面積ともに変化する variable area-variable depth gravure がある。グラビアのカラー再現性は群を抜いおり、週刊誌の写真ページ、証券、切手など大量高速で刷るものに向いている。食品の包装に使うプラスチック・フィルムへの印刷にも利用される。3メートルを越える大きな幅の用紙にも印刷が可能。グラビアの欠点は、高価であること、印刷物を拡大するとドクターでかき落とした跡が見えること、文字にもスクリーンがかけられることから、細かい文字が不鮮明になることである。  
= rotogravure, Tiefdruck (独), gravure (仏) 製版については、carbon tissue の項、美術凹版の種類については、intaglio printing を参照。

gravure ink [イ] グラビア印刷用インク。流動性が大きく、ドクターでかき落とせるようにタック値を低くしてある。グラビアが非吸収性のビニールや金属箔にも印刷できるのは、蒸発作用 (evaporation) によって乾燥するからで、乾燥速度を速めるために、引火性の高い溶剤を使用している。したがって火災